

シリーズ

一貫教育

プロジェクト

幼・保・小・中

今回は、プロジェクトで研究し、明らかにしていく内容について説明します。

五 研究内容

(一) 現行の幼稚園・保育園三年間
小学校六年間、中学校三年間の区切りについて研究します。

最近の幼児・児童生徒の体と心の発達については、次のような特徴が見られます。

児童生徒の身体的発達面では、十
一歳前後に、女子が第二充実期
から第二伸長期への移行があります。
五、六年生で半数以上に初潮が見ら
れるなど、思春期を迎えます。また、
男子の身長や体力診断テストの結果
もこの時期から伸び始めます。

思考面については、単純で具体的
な考え方をする子どもが、十一歳前
後から少しずつ複雑で抽象的な考え
方もできるようになります。

中学校二年生ごろから、青年期特
有の考え方をするようになり、人間
らしい生き方や自己を生かす能力に
強く興味を持ち始めます。

このほかに、教育心理学では、五
年生ごろからは、自らの学習成果を
自覚できるようにし、学んだことを
仕事や生活に生かしていける学習を

取り入れることが大切である」とい
うことが言われています。

脳科学の分野では、小学校低学年
の段階で、認知、情動、記憶など、
人が生きるために重要な機能をもつ
脳の前頭前野を活性化させると、ほ
かの脳にも刺激が与えられ、コミュ
ニケーション力、考える力、自立心
が身に付く」ということが言われて
います。

現在では、一般的に小学校の四年
生と五年生、中学校の一年生と二年
生で大きく変化が見られます。

阿久比町における児童生徒の実態
はどうなっているのかを把握し、適
切な区切りについて研究していきま
す。

(二) 幼稚園・保育園と小学校、小
学校と中学校との連携の在り方につ
いて研究します。

通う学校が変わり、指導方法が変
わり、学習内容も変わり、友達関係
も変わるという、何もかもが大きく
変わるのが、現状です。

- ・ 一日の大半を机に向かつて学習
するようになります(小学一年)
- ・ 学級担任制から教科担任制に変
わります(中学一年)

- ・ 全員部活参加(原則)が始まり
ます(中学一年)

小学校六年生と中学校一年生を比
べると、不登校の数が三倍以上に増
加する現状があります。

阿久比町の幼稚園・保育園と小学
校一年、小学校六年と中学校一年の



授業中の小学生

ギャップの実態を把握し、その
ギャップに対応するための具体的な
方法を研究し、明らかにします。

(三) 幼稚園・保育園・小学校・中
学校の果たすべき責任内容について
研究します。

基本的な生活習慣(食育を含む)の
確立について

- ・ それぞれの年齢における学校・
園・家庭における生活習慣で、確立
させておくべき基本的事項(家庭
で個人で、集団での基本的事項)
- ・ 教科学習について

- ・ それぞれの年齢における教科学
習内容の基本線
- ・ それぞれの年齢における学習態



図書館で絵本の読み聞かせを楽しむ幼稚園児